

「道路管理情報システム」

ケータイが変える道路パトロール

■ 効果 時間を約3分の1に短縮。

他にも、専門工事会社へ補修内容を伝えるなどの二次利用も可能。

1 はじめに…「何が」「どこで」「どのように」

道路管理者にとって、「何が」「どこで」「どのように」破損しているのかという情報を、できるだけ速く得ることが、その後の対応を考えるうえで大変重要です。

しかし、「何が」は伝えられても、「どこで」「どのように」をことばで正確に伝えることが難しい場合もあります。この課題は、現場から位置（地図）と写真を画像情報として伝えることができれば解決できます。

そこで、今回の「知恵と工夫」では、カメラ付携帯電話を使つての「道路管理情報システム」について紹介します。

2 システム導入の効果

北上地方振興局では、民間業者へ委託している道路パトロール業務において、GPS（人工衛星を利用した位置情報システム）とカメラ付き携帯電話を使った「道路管理情報システム」（位置情報画像掲示板システム）を平成15年度から採用しています。

このシステムを委託業者との連絡手段として使ったところ、道路の破損箇所を発見してから修復までの時間が、これまでの約3分の1程度に短縮することができました。簡単な補修や草刈程度ならば、報告から1時間以内で処理できたケースもあります。

従来のように、委託業者が現場から振興局へ駆けつけ、状況報告を行ってから指示を待ち、また現場へ戻って処理するやり方では実現できなかった速さです。

3 システムの仕組み

「道路管理情報システム」は次のような仕組みです。

道路パトロール受託担当者が道路の不良箇所を発見した場合、まずは破損現場を携帯電話のカメラで撮影します。この状況を説明するコメントとともにインターネット上の「道路管理情報システム」サーバーに電子メールで送信します。GPS 付きの携帯電話を使っているので、位置情報付きの画像ファイルが送信されます。振興局では、各自のパソコンから「道路管理情報システム」サーバーに接続し、誰もが破損状況を見ることができます。さらに、位置情報もついているので、電子地図上で正確な位置を確認できます。振興局では個々の情報に対して指示コメントを書き込んでいくといった仕組みです。

GPS による道路の位置情報



このシステムを有効に活用し、道路の破損箇所等を「より早く、正確に、適切に」修復し、みなさんに安全に安心して利用できるように管理していきます。